

第4回倫理審査委員会会議の記録の概要

日 時： 平成22年8月13日（金） 15：15～

場 所： 会議室

出席者：	委員（進行）	副院長	林弘人
	委員	看護部長	下高恵子
		事務部長	口藏紳一郎
		脳神経外科医長	山下勝弘
		薬剤科長	八本聖秀
		外部委員	阿武英晴(市薬剤師会)
申請者		副看護師長	岡本広美
		看護師	宮田紗緒梨
		循環器科医長	早野智子

審議事項：議題1、「手足症候群に対する県内共通パンフレットの有用性の検証」

（主任研究者：副看護師長 岡本広美）

議題2、「個室化されていない環境で安楽に過ごせる為に問題を明らかにする」

（主任研究者：看護師 宮田紗緒梨）

議題3、「マイクロニューログラフィによる交感神経活動記録での研究」

（主任研究者：循環器科 医長 早野智子）

副院長：ただ今より受託研究審査委員会を開催します。

岡本広美：抗がん剤の中でも手足症候群の有害事象は、フッカピリミジン系抗がん剤の手足症候群を始め多くの抗がん剤で出現する症状である。しかし、看護ケアについては、県内でも様々であり市販のパンフレットも具体性に欠けるものが多い。そこで県内で統一したパンフレットを作成しセルフケア支援を行うことにより質の高いケアが提供できる事を目標に本研究を行うことを説明する。

宮田紗緒梨：個室化されていない環境で、看護師の話し声や心電図のアラーム音などで、安楽に過ごせなかったという回答があり、また実際の看護場面でも安楽に過ごせなかったという声を聞き、実際に自分たちが昼と夜の8時間ベッドで過ごし、体験することで問題を把握、共感し、より良い環境を提供することを説明する。

早野智子：マイクロニューログラフィ法による筋・皮膚交感神経活動記録測定は、冷え症や起立性低血圧・失神等の自律神経関連疾患における機序の精査・治療効果判定に有用である。そこで、当院でこの検査方法の実施を開始し、精度の高い測定値を安定して得るために、次の準備が必要となる。当院に現在準備したマイクロニューログラフィ記録システムを用いて、まず健常者30例を目標に、MSNA,SSNA の記録測定を行う。これら当院での記録値の平均値、中央値他が、教科書レベルの正常コントロール値と比較して妥当かどうか、

機器システムの精度を確認することが重要となる。そのうえで、その健常者コントロール値を基準スケールとして、疾患症例を対象とする臨床検査および研究を展開していくことを説明する。

各委員：出席者全員一致で了承。